

時間割コード	25-6997	単位数	2	学期	Aセメスター
授業名	演習（憲法：デジタル・アーキテクチャと法）				
副題	デジタル・アーキテクチャと法				
担当教員	宍戸 常寿、羽深 宏樹				
<p>演習の目的・ねらい・進め方</p> <p>サイバー空間とデジタル空間が高度に融合するデジタル社会においては、デジタル・アーキテクチャ上の連携基盤において様々なサービスや規制が展開する。そのような社会において生じる様々な課題を解決するための新たなガバナンスモデルである「アジャイル・ガバナンス」は、政府のデジタル原則にも取り入れられており、また、国際的な場でも議論され、今後の法や規制のあり方に大きな変革をもたらすことが予想される。本演習では、このような現在進行形で議論されている問題状況について、法学の観点から理解を深めるとともに、生成系AIや自動走行、デモクラシーなどの様々な課題について、実践的な検討を行うことにする。</p>					
<p>履修上の注意</p> <p>法学部・総合法政専攻・法曹養成専攻・総合情報学府の合併授業である。</p> <p>前提知識の有無ではなく、デジタル社会の諸問題に関心のある熱意ある学生の参加を期待している。</p>					
<p>授業の構成</p> <p>前半では、アジャイル・ガバナンスの概念、①ルール形成、②モニタリング、③エンフォースメントといった諸要素、憲法・情報法をはじめ様々な法分野との相互関係について、報告や議論を下に理解を深める。</p> <p>後半では、前半で共有した理解を基礎に、参加者の関心に従って、デジタル社会の様々な論点をユースケースとして、アジャイル・ガバナンスの適用可能性と課題について発表し、議論する。</p> <p>適宜、ゲストスピーカーによる話題提供や報告を取り入れる。</p>					
教材等	<p>〈教科書〉</p> <p>特になし。必要な文献を適宜指示する。</p> <p>〈参考書〉</p> <p>経済産業省新たなガバナンスモデル検討会の次の報告書を参照。</p> <p>1) Governance Innovation-Society 5.0の実現に向けた方とアーキテクチャのリ・デザイン</p> <p>2) Governance Innovation Ver.2 アジャイル・ガバナンスのデザインと実装に向けて</p> <p>3) Governance Innovation Ver.3 アジャイル・ガバナンスの概要と現状</p>			使用言語	日本語/英語
成績評価の方法	平常点により成績評価を行なう。レポートを課さない。				
特記事項					